

# 服に新たな命を吹き込む「服活」大作戦！

学校教育における普及・啓発

エシカルファッション

リユース

国際貢献

伝統

## 徳島県立那賀高等学校

所在地：徳島県那賀郡那賀町小仁宇字大坪179-1

沿革：昭和27年12月開校

学科：普通科、森林クリエイト科

生徒数：1年 69名/2年 73名/3年 71名

合計 213名(平成30年5月1日現在)

平成29年度から「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト「エシカルクラブ」実践校として活動

### ○事業・活動の概要

徳島県立那賀高等学校では、平成29年度にエシカルクラブを設置し、家庭で不要となった衣服を回収し、必要としている人に提供することで再利用を図る「服活」を中心に、エシカル消費に関する取組を行っている。

平成30年度は校内や那賀町内だけでなく、町外のショッピングセンターでもイベントを開催するなど、「服活」の取組は県内各地に広がりを見せている。

### ○不要となった衣服を再利用する「服活」

「服活」は、エシカルクラブのメンバーが家庭クラブの研究発表会に向けて衣服のリサイクルについて学ぶ中で、「衣服のリメイクには技術が必要だが、捨てる前に必要としている方に引き取ってもらうことで、服が再利用され、ゴミを減らすことができるのでは」と考えたことがきっかけで取組が始まった。

平成29年5月、まずは校内において不要となった衣服の回収と提供を試みた。しかし、服が思うように集まらず、また、身近な知り合いの服を着ることに抵抗があるのか、引き取られた数も少なかった。

このため、7月には近隣の保育所や小中学校に働き掛け、回収ボックスを設置するとともに、保護者向けのチラシを配布するなど、校外にも積極的に協力を呼び掛けることとした。この活動が功を奏し、夏休み期間だけで子ども服や婦人服を中心に1,000着程度の衣服が集まり、9月の文化祭では220着を提供することができた。新聞で取り上げられるなど、「服活」の依頼は徐々に増えてきており、現在では町外のスーパー等にも回収ボックスを設置している。

回収ボックスには、多くの服が集まるようになった一方で、汚れが目立ち譲渡できない状態の衣服まで投入されるなどの課題もあった。このため、出品する前に生徒たちが1枚ずつ見定め、衣服の状態が良いものから、①イベント等で提供するもの、②「古着deワクチン」に寄付するもの、③廃棄するものに分別している。その結果、半数程度は廃棄せざるを得ない衣服だが、小さな汚れのある衣服や

イベント等で引き取り手のなかった衣服であっても、開発途上国に対して衣服と共にポリオワクチンを届ける「古着deワクチン」に寄付することで、国際貢献につなげている。

また、活動を進める中で取組に賛同した企業から布の寄付があったため、裁縫の得意な生徒たちでエコバッグ等を製作している。エコバッグはイベントで衣服を渡す際に「本当に無料でもらっていいの？」といった声も多くあったことから200円で販売し、売上を「古着deワクチン」の送料に充てている。

※ポリオとは、ウイルスが主に乳幼児の口から体内に入り、手足の麻痺などを引き起こす感染症のこと。



### ○エシカルファッションの普及

「服活」のPR活動として、回収した衣服の中から綿を素材としたシャツを選び、生徒自らが徳島県の伝統工芸である藍染を施したオリジナル衣装を着用して、徳島県藍住町が主催するインディゴコレクション(藍染めをテーマにしたファッションショー)に参加している。イベントでは「服活」の一環として作られた衣装であることが紹介され、エシカルファッションの普及も担っている。

### ○今後の活動

平成30年度中に2,000着程度の衣服を譲渡できる見込みであるが、エシカルクラブのメンバーに何うと、「もっと若い人にも服活を知ってほしい。若い人の衣服を増やしていきたい。」との意気込みを語っており、「服活」の更なる普及が期待される。

また、同校ではほかにも郷土料理やジビエ料理の調理実習を行い、生産者の高齢化に伴う伝承の難しさや、野生鳥獣の食害対策としての鹿肉の利用を学ぶなど、「服活」以外の視点からもエシカル消費につながる活動を行っていくこととしている。

公表日：平成31年3月22日 取材：平成30年12月

外部リンク：<http://naka-hs.tokushima-ec.ed.jp/>